

肢

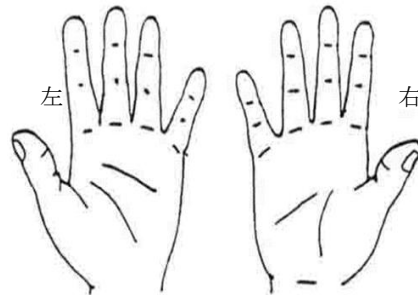
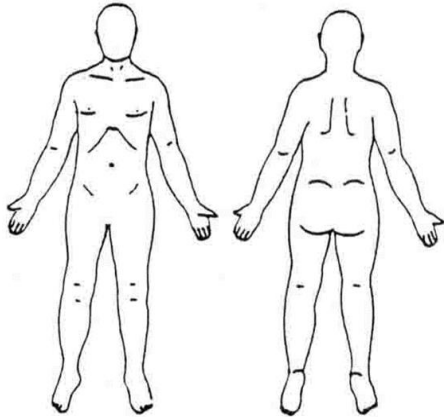
身体障害者診断書・意見書（肢体不自由用）

氏 名	年 月 日生	男 女
住 所		
① 障害名（部位を明記）		
② 原因となった 疾病・外傷名		交通，労災，その他の事故，戦傷，戦災， 自然災害，疾病，先天性，その他（ ）
③ 疾病・外傷発生年月日 年 月 日・場所		
④ 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日		
⑤ 総合所見（再認定の項目も記入）		
〔将来再認定 要（軽度化・重度化）・不要〕 〔再認定の時期 年 月〕		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年 月 日 病院又は診療所の名称 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する（ ）級相当 上肢 級 下肢 級 体幹 級 ・該当しない		
注意 1 障害名の欄には，上肢機能障害（右手関節強直），体幹運動機能障害（下半身麻痺）等と記入し，原因となった疾病・外傷名の欄には，脳卒中，関節リュウマチ等障害の原因となった疾病等を記入するとともに，該当する事項を○で囲んでください（「その他」を囲んだ場合は（ ）内に具体的に記入してください。）。 2 障害区分や等級決定のため，改めて状況及び所見についてお問い合わせする場合があります。		

肢体不自由の状況及び所見

- 1 神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見記入。）
- (1) 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- (2) 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙攣性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- (3) 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- (4) 排尿・排便機能障：なし・あり
- (5) 形態異常：なし・あり

2 参考図示



【記載例】

×変形 切離断 感覚障害 運動障害

3 握力・歩行能力・起立位

握力	左	右
	kg	kg
歩行能力（補装具未装着）	m	
起立位（補装具未装着）	分	

（注）上肢に障害がある場合は握力，下肢又は体幹に障害がある場合は歩行能力・起立位を記入。

4 計測値

左		右
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径 cm	
	前腕周径 cm	
	大腿周径 cm	
	下腿周径 cm	

（注）障害部位について記入

- 5 動作・活動
- ・自立－○ 半介助－△ 全介助又は不能－×
 - ・（ ）の中のものを使うときは、それに○を付す。
 - ・左右の別がないものは、共働での評価とする。

寝返りをする		シャツを着て脱ぐ	
足を投げ出して座る		ズボンをはいて脱ぐ（自助具）	
椅子に腰掛ける		顔を洗いタオルでふく	
立つ （手すり，壁，つえ，松葉づえ，義肢，装具）		（はしで）食事をする （スプーン，自助具）	右 左
家の中の移動 （壁，つえ，松葉づえ，義肢，装具，車いす）		コップで水を飲む	右 左
二階まで階段を上って下りる （手すり，つえ，松葉づえ）		ブラッシュで歯を磨く（自助具）	右 左
屋外を移動する（家の周辺程度） （つえ，松葉づえ，車いす）		タオルを絞る	
公共の乗り物を利用する		背中を洗う	
		洋式便器に座る	
		排泄の後始末をする	

注：身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

筋力テスト () **関節可動域** **筋力テスト ()** **関節可動域** **筋力テスト ()**

左 **右**

首 (Neck)

前屈 () 後屈 () 左屈 () 右屈 ()

体幹 (Trunk)

前屈 () 後屈 () 左屈 () 右屈 ()

肩 (Shoulder)

屈曲 () 伸展 () 内転 () 外転 ()

外転 () 内旋 () 外旋 () 内旋 ()

肘 (Elbow)

屈曲 () 伸展 ()

前腕 (Forearm)

回内 () 回外 ()

手 (Hand)

掌屈 () 背屈 ()

手指 (Finger)

母指 () 示指 () 中指 () 環指 () 小指 ()

屈曲 () 伸展 ()

近位指節 (PIP)

母指 () 示指 () 中指 () 環指 () 小指 ()

屈曲 () 伸展 ()

股 (Thigh)

屈曲 () 伸展 () 内転 () 外転 ()

内旋 () 外旋 ()

膝 (Knee)

屈曲 () 伸展 ()

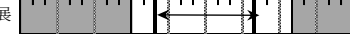
足 (Foot)

背屈 () 底屈 ()

備考

注：

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
 - 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
 - 3 関節可動域の図示は、| $\longleftrightarrow$ |のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(Σ)を引く。
 - 4 筋力については、表()内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失または著減(筋力0, 1, 2該当)
△印は、筋力半減(筋力3該当)
○印は、筋力正常またはやや減(筋力4, 5該当)
 - 5 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
 - 6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
 - 7 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。
- 例示
- (×) 伸展



屈曲(△)

計測法：

上肢長：肩峰→橈骨莖狀突起

下肢長：上前腸骨棘→（脛骨

上腕周径：最大周径

前腕周径：最大周径

大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径（小児等の場合は別記）

下腿周径：最大周径